

高齢者福祉分野に勤務する介護職員の生活者の介護観尺度の作成

その他のタイトル	Development of a scale for caregivers working in the elderly homes on the view of caregiving as a living person
著者	堀内 泉, 串崎 真志
雑誌名	関西大学心理学研究
巻	12
ページ	27-32
発行年	2021-03
URL	http://doi.org/10.32286/00022972

高齢者福祉分野に勤務する介護職員の 生活者の介護観尺度の作成

堀内 泉 関西大学大学院心理学研究科
串崎 真志 関西大学文学部

Development of a scale for caregivers working in the elderly homes on the view of caregiving as a living person

Izumi HORIUCHI (Graduate School of Psychology, Kansai University)
Masashi KUSHIZAKI (Faculty of Letters, Kansai University)

In this study, we developed a scale that measures caregivers' view of caregiving as a living person, in which caregivers feel a sense of connection with and support for patients. A total of 224 caregivers in the field of welfare for the elderly were surveyed online. As a result, we obtained a single-factor, 15-item scale with a high degree of internal consistency and a moderate correlation with existing care scales. Further research is needed to clarify the characteristics of this scale.

Keywords: Development of a scale, View of caregiving, Living person, Interpersonal assistance

問題と目的

我が国における介護職従事者は、2018年時点で183.3万人にのぼる（厚生労働省、2019）。看護職の従事者が166万人（日本看護協会、2017）であることと比較すると、たいへん多いことがわかるだろう。一方、介護サービス業界は、労働者にとっていわゆる3K職場と言われ、長時間労働のストレス、高齢者虐待などの問題がメディアに取り上げられ、イメージが悪化している（藤村、2016）。そして、介護労働者の不足は社会的な問題になっており、2025年には37.7万人の介護労働者が不足すると見積もられている（厚生労働省、2015）。

また、これまで介護職は、単純作業とみなされ、無資格者によって担われてきた歴史がある。現在は、

法的には整備され、専門職として確立されているが、その実質的な専門性は現在も問われ続けている（安、2014）。介護労働者の確保と併せて、介護の専門性を高めるための研究が必要とされている。

対人援助職側の要因「介護観」

介護の専門職は、医師、看護師、カウンセラー、教師などと同様、対人援助の専門職である。対人援助においては、それをを行う人の基本姿勢に代表される援助者側の要因と、援助理論や援助技法などの技術的側面が相補的に影響し合っている（飯田、2010）。

その援助者側の要因の一つとして、介護の仕事に対する価値観がある。それは「介護観」という言葉で表現されることが多い（藤原、2019）。介護現場においては、介護に対する思い、考え方、大切にして

いること等を、介護観と呼んでいる。

介護観を測定する尺度の一つとして、白石・大塚・影山・藤井・今井(2010)の介護観尺度(Table 1)がある。白石他(2010)は、介護観を、「ケアの方向性・考え方」を中核としつつ、働き方や仕事への取り組み方を含むものとしてとらえ、「介護職員が介護の仕事に取り組む際によって立つ価値観および態度」と定義した。この尺度は、「考え、振り返る実践重視」「家族の意向・安全重視」「残存能力・機能重視」「組織内のルール・規範重視」の4因子19項目で構成されている。白石・藤井・大塚・影山・今井(2011)は、この介護観尺度を介護職員の「こだわり」を測定するための指標であると述べている。

また、山本・久世(2018)は、白石他(2010)の介護観尺度と併せて、介護職員への「介護をする上で一番大切にしていること」を自由記述で調査した。その結果、「思いを持って利用者とかかわる」「利用者目線になって考える」「よりよい生活を過ごす」といったサブカテゴリーが抽出された。さらに安(2014)は、介護福祉士を養成する教員に対して、自由記述による調査を行い、介護福祉士の専門性に関する構成要素として、「生活」というキーワードを多く含むことを報告した。介護福祉教育のなかでは、人の生活を重視した教育がなされているといえるだろう。

先行研究の範囲を保育・福祉・心理に広げると、白井・林(2015)、小川(2008)、飯田(2010)の研究

がある。例えば、小川(2008)は、社会福祉士にインタビュー調査を行い、現場でのジレンマを経て、独立を選択する過程における援助観を分析した。ここでは、そのプロセスのサブカテゴリー「生活者としての(被援助者との)つながり意識」を構成する2つの概念「当事者性の認識」「人生哲学の形成」に注目したい。小川(2008)は、これに関して、援助するもの・される者という関係性から距離をおくことで、自らも一人の生活者であることを意識化すると述べている。また、小川(2012)は同様のインタビュー調査で、ソーシャルワーカーの実践観を分析した。ここでいう実践観とは、「ソーシャルワークの理論知と経験知がソーシャルワーカーとしての実践や生活体験を通して形成される援助観(価値-倫理観含む)の総体」を指す。小川(2012)は、その「実践観の形成」のサブカテゴリー「ささえる」の説明として、同じ地域で生きる一人の生活者であることを意識する「生活者としてのつながり意識」を挙げている。

そして飯田(2010)は、カウンセラーの心理的援助に関する研究で、カウンセラー自身が一人の人間として、自分自身の生活からの学びと知識と理論を自身の中で循環させることが援助者の資質を磨くことになると述べた。以上のことから、本研究では、生活者の介護観を「介護職員が自分自身を振り返り、利用者とのつながりを感じながら支える介護」を大切にすることと定義し、それを測定する尺度を作成する。

Table 1 介護観尺度の項目(白石・大塚・影山・藤井・今井, 2010)

-
1. 利用者と接した後、自分の態度や言動が適切だったかどうかを常に振り返るべきだ
 2. 自分の介護のやり方を振り返り、改善するところを考えるべきだ
 3. 利用者がなぜ、今、そのような行動をしたのか、常に考えるべきだ
 4. 利用者の様子・行動の変化が、どのような意味を持つのかを考えるべきだ
 5. 利用者と接する際、自分の感情がどのように表れているかを考えて、ケアを行うべきだ
 6. 利用者の意思疎通ができない場合、家族の意向を最優先にするべきだ
 7. 利用者の生活に多少不自由があっても、介護事故が起こらないようにすることが重要だ
 8. 病気や事故の予防のためには、利用者の快適な生活が犠牲になってもやむを得ない
 9. 介護内容について判断に困ったときは、家族に決定してもらうべきだ
 10. 利用者ができることを見つけ、それを引き出していかないと、生き生きとした生活を送ることができない
 11. どのような状態になっても、残存機能を生かすための訓練やリハビリは行うべきである
 12. 過去の生活歴・習慣の中から継続できることを見つけないと、利用者の残存能力の維持は難しい
 13. 時間がかかっても、利用者にできることをやってもらうと、生活能力や身体能力は衰えない
 14. 利用者の過去の生活歴や思考を把握することで、意思疎通のできない人でも、その人の望むケアが実行できる
 15. 職場や施設で決められたマニュアルやルールに従うことは、重要である
 16. 介護職員は、みんなで決めたケアプランに従って、その通りに実践しなくてはならない
 17. 介護の仕事はチームワークが重要であり、チーム全体の意見に従って仕事をするべきだ
 18. 介護職員によって、利用者への対応が違うことは好ましくない
 19. 組織の一員であることを意識して、仕事に取り組むべきだ
-

第1因子 考え、振り返る実践重視(1~5)、第2因子 家族の意向・安全重視(6~9)

第3因子 残存能力・機能重視(10~14)、第4因子 組織内のルール・規範重視(15~19)

方法

参加者

高齢者福祉分野で勤務する介護職員 224 名（男性 81 名，女性 143 名， $M=39.7$ 歳， $SD=12.19$ ）が参加した（実施時期 2020 年 7 月）。

手続き

オンライン調査会社に依頼しウェブ調査を行った。参加者は、この調査が任意の参加であることの説明文を読み、同意した場合のみオンラインの回答フォームに回答した。

質問紙

一番ヶ瀬（1993），井口（2009），飯田（2010），川廷（2019），小川（2008，2012），佐藤（2019），白井・林（2015），白石・大塚・影山・藤井・今井（2010），高野・堀内・峯本（2015），山本・久世（2018），吉

田（2015）の記述を参考に、介護職員の生活者としての視点に立った介護観を操作的に定義し、生活者の介護観尺度 18 項目の文章を作成し実施した。

また、白石・大塚・影山・藤井・今井（2010）が作成した介護観尺度 4 因子 19 項目との関連（妥当性）をみるために、介護観尺度をあわせて実施した。両尺度とも、「全く反対」を 1、「全く賛成」を 4 とする 4 件法で評定した。

結果

因子分析結果

まず、生活者の介護観尺度を探索的因子分析（主因子法，Promax 回転）した（Table 2）。固有値の減衰状況（9.37，1.10，0.95，0.77）からは 2 因子が妥当であると思われる。因子負荷量が概ね、3 以上の項目をもって下位尺度を構成したが、第 2 因子の項目間のまとまりが良くないことから、3 項目を削除し、1 因子 15 項目（ $M=47.8$ ， $SD=7.03$ ， α

Table 2 生活者の介護観尺度の探索的因子分析（ $N = 224$ ）

	<i>M</i>	<i>SD</i>	第1因子	第2因子	独自性
1. 自分がどんな人生や生き方をするのかを考えることは大切だ	3.21	0.64	.636	.142	.442
2. 人が生きることの意味や価値を常に意識することは大切だ	3.12	0.69	.485	.240	.536
3. 人生の先輩である利用者との関わりは、自分の将来を知ることにもなっていると思う	3.17	0.63	.437	.334	.483
4. 利用者のよりよい生活や人生の実現を支援する者としての意識を持つことは大切だ	3.29	0.60	.852	-.035	.317
5. 介護は、利用者の人生をも支え、利用者の人生が変わってしまうくらい重要な仕事だ	3.10	0.71	.428	.307	.530
6. 利用者の心理的な苦しみや辛さに共感することは大切だ	3.19	0.60	.572	.208	.456
7. 利用者と介護者が楽しさや嬉しさを共有することで、利用者も介護者も喜びが見いだせると思う	3.18	0.63	.810	-.068	.419
8. 利用者を傷つけないコミュニケーションを心がけることは、利用者との人間関係の構築に大切だ	3.25	0.62	.815	-.095	.441
9. 利用者と介護者が共に親しみを感じられるような関係を築くことが大切だ	3.19	0.62	.524	.167	.568
10. 自分自身の生活の在り方を意識することで、利用者の生活支援に活かすことができると思う*	3.04	0.62	.184	.550	.515
11. 自分の生活体験を積極的に意味付けすることは大切だ*	2.81	0.68	-.291	.893	.499
12. 援助する者・される者という関係性から距離を置き、自らも一人の生活者であることを意識することは大切だ*	3.02	0.59	.268	.443	.557
13. 介護者も利用者と同じ生活者であることを常に意識できることが大切だ	3.13	0.60	.505	.266	.478
14. 自分の生活の中で学んだことと、介護に関する知識や理論とを自身の中で循環させることは大切だ	3.06	0.61	.387	.319	.567
15. 利用者に寄り添い、利用者が求めているニーズを把握することは大切だ	3.32	0.62	.881	-.164	.408
16. 利用者を日常的によく観察し、利用者のできることとできないことを的確に把握することは大切だ	3.29	0.62	.848	-.085	.379
17. 介護方法や家族との関わり方など、常に自分自身を振り返り悩むことも必要だ	3.14	0.63	.496	.324	.414
18. 利用者から必要とされる自分になるために、常に何ができるのかを考えていく姿勢は自分を磨いていくことになると思う	3.19	0.62	.610	.165	.454

*10, 11, 12は削除

= .942) とした。適合度指標は、 $\chi^2=264, df=90, p = .001, CFI = .915, TLI = .901, SRMR = .046, RMSEA = .093, AIC = 4579, BIC = 4681$ であり、1 因子のモデルで問題ないと判断した。ヒストグラムを Figure 1 に示した。

次に、白石他 (2010) が作成した介護観尺度について、4 因子を想定した確認的因子分析を行った。適合度指標は、 $\chi^2=273, df=146, p = .001, CFI = .924, TLI = .911, SRMR = .065, RMSEA = .062, AIC = 6922, BIC = 7072$ であった。

生活者の介護観尺度と介護観尺度の相関

生活者の介護観尺度と、介護観尺度の4 因子それぞれの相関係数を算出した (Table 3)。すべての因子について、正の相関がみられた。

生活者の介護観尺度と年齢および性差、資格の有無、役職の有無、雇用形態の関連

生活者の介護観尺度と年齢の相関係数は $r = .135 (p = .005)$ であった。分散分析を行った結果、生活者の介護観尺度と性別 ($F(1, 223) = .039, p = .533$)、資格の有無 ($F(1, 223) = .001, p = .972$)、役職の有無 ($F(1, 223) = 1.042, p = .302$)、雇用形態 ($F(1, 223) = .210, p = .647$) のいずれも有意な結果は得られなかった。

考 察

本研究では、生活者の介護観尺度15項目を作成した。内的整合性は高く ($\alpha = .942$)、介護観尺度との相関は、第2 因子 (家族の意向・安全重視) との相関がやや低かった ($r = .218$) が、第1, 3, 4 因子と

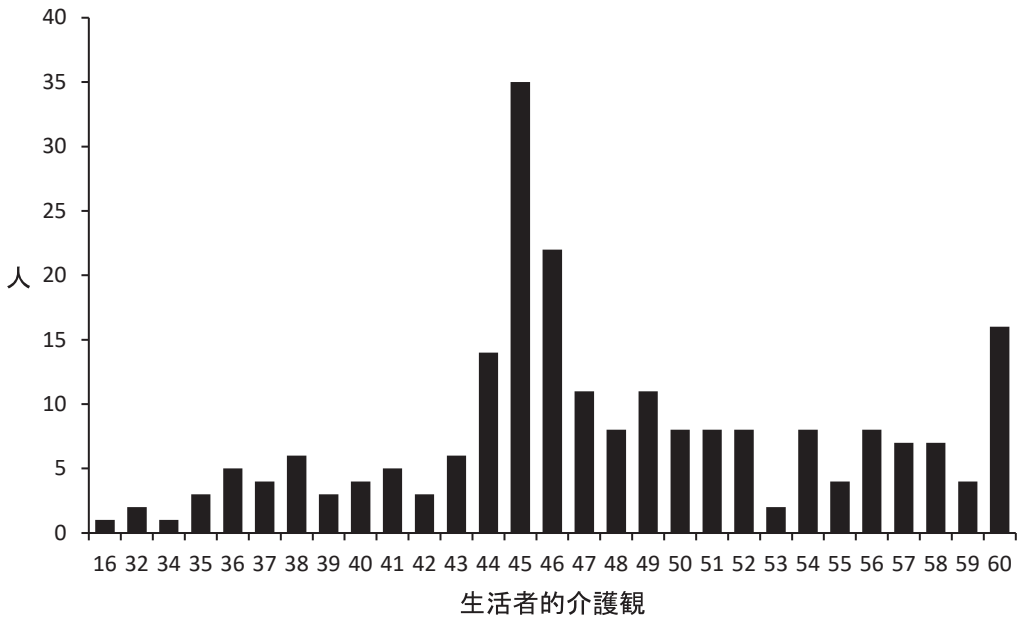


Figure 1 生活者の介護観尺度のヒストグラム

Table 3 各尺度の Spearman 順位相関係数 (N=224)

	1	2	3	4	5
1. 生活者の介護観 15項目	—	.661***	.218**	.458***	.577***
2. 介護観 第1 因子「考え、振り返る実践重視」5 項目		—	.200**	.468***	.493***
3. 介護観 第2 因子「家族の意向・安全重視」4 項目			—	.400***	.368***
4. 介護観 第3 因子「残存能力・機能重視」5 項目				—	.478***
5. 介護観 第4 因子「組織内のルール・規範重視」5 項目					—

$p < .001$ ***, $p < .01$ **

はほどよい相関 ($r = .661, .458, .577$) であった。生活者の介護観尺度と第2因子(家族の意向・安全重視)の相関が低かったことから、両尺度の間には弁別的妥当性がみられた可能性があると考えられる。介護観尺度第2因子(家族の意向・安全重視)は、「病気や事故の予防のためには、利用者の快適な生活が犠牲になってもやむを得ない」「介護内容について判断に困った時は、家族に決定してもらおうべきだ」などの項目である。生活者の介護観尺度の項目では、「人の生きることの意味や価値を常に意識することは大切だ」「利用者のよりよい生活やよりよい人生の実現を支援する者としての意識を持つことは大切だ」といった、利用者に焦点をあてた項目内容であったためだろう。以上の内容を踏まえ、生活者の介護観尺度は尺度としての使用がいろいろ可能と思われる。

また、生活者の介護観尺度と性別、資格の有無、役職の有無、雇用形態の分散分析の結果からは、有意な結果が得られなかった。このことは、生活者の介護観の構成概念が普遍的であるため、これらの属性による差異がみられなかったといえるだろう。

本研究では、介護観尺度について検討したが、白石他(2010)が述べているように、介護観は介護や介護教育の現場では重要な言葉であると同時にその概念は曖昧で多様である。本研究で作成した生活者の介護観尺度は、介護観の操作的定義を介護者の生活者としての視点に限定した点や、再検査信頼性の検証などの課題も残っている。また、生活者としての視点が介護職員の職務継続や仕事への取り組み方とどのように関連しているのかについても今後検討していきたい。

引用文献

安瓊伊(2014). 介護福祉士の専門性の構成要素の抽出 — 介護福祉士養成施設の介護教員の自由記述の内容分析に基づいて — 老年社会科学, 35, 419-428.

藤村和宏(2016). “便益享受”と“便益遅延性”を鍵概念とする専門職のワーク・モチベーション・モデルの構築可能性を探る — 介護サービス業界の職員を対象として — 香川大学経済論叢, 1, 15-85.

藤原京佳(2019). あるEPA介護福祉士候補者の介護観を形成することは 言語文化教育研究, 17, 214-233.

一番ヶ瀬康子(1993). 『介護福祉学とは何か』(pp.5-9) ミネルヴァ書房

井口克郎(2009). 介護労働者の専門職化に関する考察 日本医療経済学会会報, 28, 26-56.

飯田昭人(2010). 対人援助職者の資質に関する一試論 — 心理的援助における援助者側の要因に焦点を当てて — 人間福祉研究, 13, 11-1.

川廷宗之(2019). 「介護」業務の社会経済的意義 敬心・研究ジャーナル, 3, 135-140.

厚生労働省(2015). 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 2025年にむけた介護人材にかかる需給推計(確定値)について Retrieved from https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12004000-Shakaiengokyoku-Shakai-Fukushikibanka/270624houdou.pdf_2.pdf. (2020年9月25日)

厚生労働省(2019). 介護分野の現状等について Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/content/12602000/00489026.pdf> (2020年9月25日)

日本看護協会(2017). 看護統計資料 Retrieved from <https://www.nurse.or.jp/home/statistics/pdf/toukei01.pdf>(2020年9月25日)

小川幸裕(2008). 「独立型社会福祉士」に関する仮説的研究 — 社会福祉士が独立を選択する過程にみる「援助観」形成プロセス — 弘前学院大学社会福祉学部研究紀要, 8, 11-17.

小川幸裕(2012). 自律性の確保を契機としたソーシャルワーク課題の再形成と実践観形成プロセスの検討 — 独立型社会福祉士の実践から — 弘前学院大学社会福祉学部研究紀要, 12, 1-10.

佐藤眞一(2019). 認知症の人の心の中はどうなっているのか? (pp.1-10, 55-63, 274-280) 光文社新書

白井はる奈・林悠子(2015). 対人援助者に求められる援助観 — 乳児保育における熟練保育士の語りの分析を通して — 佛教大学社会福祉学部論集, 11, 11-30.

白石旬子・大塚武則・影山優子・藤井賢一郎・今井幸充(2010). 特別養護老人ホームの介護職員の「介護観」に関する研究: 教育・資格, 経験年数による相違 介護福祉学, 17, 164-175.

白石旬子・藤井賢一郎・大塚武則・影山優子・今井幸充(2011). 個性が尊重されない「組織風土」における、「キャリア・コミットメント」の高い介護職員の離職意向と「介護観」の関連 老年社会科学, 33, 34-46.

高野恵子・堀内泉・峯本佳世子(2015). 高齢者施設におけるホスピタリティに関する調査(第2報) 甲子園短期大学紀要, 33, 41-48.

山本未央・久世淳子(2018). 特別養護老人ホームで働く介護職員の介護観とモラル — 介護観尺度と自由記述を用いて — 日本福祉大学健康科学論集, 21, 61-69.

吉田節子(2015). 介護過程 介護福祉士養成講座編集委員会(編) 介護過程の意義と目的 (pp.2-14) 中央法規出版

付記

本研究は、関西大学大学院心理学研究科 研究・教育倫理委員会の審査を受け、承認を得た。

利益相反

著者全員がいかなる利益相反もないことを表明する。

著者分担

第1著者が本研究を発案し、調査の実施、データ分析を行い、草稿をまとめた。第2著者は研究デザインと分析計画に助言を行い、草稿の修正を行った。最終稿は二人で確認した。

著者紹介

堀内 泉 2019年関西大学大学院心理学研究科博士課程前期課程修了、修士(心理学)。2004～2008年湊川短期大学専任講師、2012～2016年甲子園短期大学特任専

任講師。現在、関西大学大学院心理学研究科博士課程後期課程に在籍中。介護職員の職務継続意思に関心がある。串崎真志 関西大学文学部教授。

Correspondence concerning to this article should be addressed to Ms. Izumi Horiuchi at i.horiuchi@gaia.eonet.ne.jp.

要 旨

本研究では、介護職員が利用者とのつながりを感じながら支えるという、生活者の介護観を測定する尺度を作成した。高齢者福祉分野で勤務する介護職員224名を対象に、オンライン調査を行った結果、内的整合性が高く、既存の介護観尺度と中程度の相関をもつ、1因子15項目の尺度を得た。この尺度の特徴を明らかにするべく、今後さらに研究を行う必要がある。

キーワード：尺度作成、介護観、生活者、対人援助職